

2016年度多摩ジェンダー教育ネットワーク 第25-26回会合 および2017年度からのメーリングリスト化について 加藤恵津子

「多摩ジェンダー教育ネットワーク」のこれまで

「多摩ジェンダー教育ネットワーク」は、2009年11月に発足した、多摩地区の大学でジェンダー教育に携わる人々の「人間関係」です。

ジェンダー関連科目はあっても、ジェンダー教育がプログラムや専攻として制度化しにくい日本の諸大学にあって、その教育者は孤立しがちです。当ネットワークはそのような人々をつなぎ、経験、スキル、直面している問題点を分かち合うことで互いをエンパワーすべく始めました。

これには「顔の見える」関係づくりが重要と考え、行き来のしやすい多摩地区の大学教員を中心メンバーとしてきましたが、「越境」参加者、大学院生、NPO等の活動家、自治体職員（2013年度より多摩市男女共同参画担当の方々）、出版社の方など、ジェンダー・セクシュアリティ教育・研究に関心のある様々な方にもご参加いただけてきました。

会合は3～4か月に一回、平日の夜19～21時、多摩地区の諸大学およびTAMA女性センター（京王線 聖蹟桜ヶ丘駅前）で持ち回りで開催し、メンバーによる教育・研究実践の報告の他、年間テーマに基づき、外部講師によるレクチャーも行ってきました。

2017年度以降

発足から8年が経過し、一定の役割を果たした当ネットワークは、2017年4月以降、定例会形式を終了し、メーリングリスト上の団体へと移行します。これにより「総」方向的な情報・意見交換の場、あるいは会合呼びかけの場として、新たに出発いたします。

以下は、現在の形式の団体としての最後のご報告となります。

世話人（2016度現在）：

石川照子（大妻女子大学比較文化学部）

加藤恵津子（国際基督教大学ジェンダー研究センター）

稲本万里子（恵泉女学園大学）

事務担当：松崎実穂（国際基督教大学ジェンダー研究センター 研究所助手）

報告

〈第25回会合〉

日 時：2016年5月19日（木）

テーマ：「学生による『デートDV』啓発を支援する：早稲田大学の試み」

発表者：兵藤智佳（早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター（WAVOC）
准教授）、湯山秀平（早稲田大学卒業生）

場 所：TAMA女性センター

出席者：12名

「グローバルヘルス」と題する講義を通して、学生に自発的にジェンダー問題を考えさせる兵藤氏、元教え子の湯山氏より、男子をDV被害者とする啓発ビデオを学生が作製・発表したケースを紹介していただきました。湯山氏からは、プロジェクトに関わった元学生としての自省的な成長感、兵藤氏からは「男子学生が自分の気持ちを語れる場をまず設けたい」との実感が語られました。「男子がDV被害者」という盲点的なケースを取り上げる意義に加え、男子が女子に共感できるようになるプロセスは斬新で、参加者からは熱心な質問が相次ぎました。

〈第26回会合〉

日 時：2016年10月6日（木）

テーマ：「多様な性にとって真に安心・安全なキャンパスとは」

発表者：生駒夏美（国際基督教大学）、続いて自由討論

場 所：国際基督教大学

出席者：12名

2016年夏に報道された、一橋大学での性的マイノリティ学生逝去を受けた報告、および座談会。日本の大学の中央集権化が進み、ジェンダー研究がますます周辺化される中、あらゆる性的背景をもつ学生が自己肯定感を持てるキャ

ンパス環境、居場所づくり、関連部署の連携は、ますます実現から遠ざかっています。教職員が主体となり、大学が、学生にとって「毎日どう闘って生き抜いていくか、見せてくれる人に会える場」となれないだろうか。諸大学・団体の事例や取り組みからヒントを探る、熱い議論となりました。4月以降の当ネットワークのあり方についても広く討論しました。

* * *

これまで無報酬で講師をお引き受けくださった皆さま、参加者の皆さまを始め、ご関心をお寄せくださったすべての皆さまに心より御礼申し上げます。

**From 25th to 26th Meetings
of the Tama Gender Education Network 2016
And Its Transformation in 2017
Etsuko KATO**

The Tama Gender Education Network is an association of lecturers who teach gender-related courses at universities in the Tama district. Due to the Japanese academic environment which marginalizes gender and sexuality studies, the lecturers tend to be isolated from each other. The Network, launched in November 2009, has aimed at mutual empowerment of its members through sharing experiences, teaching skills, and hardships. Having started within the Tama district to enhance face-to-face communication, the Network has welcomed members from outside the district or academia, including activists, publishers or local government staff.

From April 2017 the Network makes a fresh start as an online group which enables members to freely exchange opinions or information, or to invite to meetings on specific topics. The Network gives deepest thanks to all those who are involved or interested in its activities for the past eight years.

Organizers (as of 2016):

Teruko ISHIKAWA (Faculty of Comparative Culture, Otsuma Women's University)

Etsuko KATO (Center for Genders Studies, ICU)

Mariko INAMOTO (Keisen University)

Clerical Staff:

Miho MATSUZAKI (Research Institute Assistant, Center for Gender Studies, ICU)